

— 話題 —

心の問題と医学的アプローチ

日本医科大学大学院衛生学公衆衛生学分野

川田 智之

自然科学には測定がつきものである。評論家小林秀雄は、自然科学の方法論を「測定された複数指標の関係性(因果律)を検討すること」と定義している。自然科学のうち医学を生物學人間各論と考えれば、その生物學的アプローチの中心は、対象から物質を抽出して、それを再現性のある方法で測定することから始まる。結果的に測定結果を解釈することが、医療現場での診断や治療に貢献する成果につながれば、医学研究の意義もあるというものである。

さて、私の研究では、人間の精神状態に関わる指標を、しばしば測定対象としている。例えば、睡眠指標として、睡眠時間、入眠潜時、睡眠率、各睡眠段階出現割合など、睡眠ポリグラフ測定結果から計算しているが、主観的睡眠感として、Visual Analogue Scale (VAS) を用いた睡眠の良否を測定することもある。また、気分の落ち込みの程度を測定するために、様々な抑うつ尺度が考案され、疫学調査でしばしば使用してきた。さらに、臨床現場では、構造化された面接手法により、大うつ病診断のための標準診断マニュアルも用意されている。

これらを俯瞰すると、物質測定のみならず、人間の心(あるいは意識)に関わる測定も日常しばしば行われ、「心理測定(サイコメトリー)」という言葉も定着している。最近の社会疫学調査では、質問紙等を用いた人間の認知情報を収集する心理測定単独ではなく、物質測定を併用した研究デザインも多く採用されている。

それでは、客観的といわれる物質測定は、主観的な問診・面接・質問紙による心理測定よりも優れた指標といえるのだろうか。まず、「優れている」という言葉の定義が必要であるが、再現性があり、病態の進行と量—影響関係が築かれ、測定者の違いで値が変動しないことなどが求められる。

さて、物質測定と心理測定の結果の整合性をどのように考えるべきであろうか。ここで私は、前述した小林秀雄が、CD出版されている講演の中で紹介しているベルクソンやフロイトの考え方を印象深く思いだす。ベルクソンやフロイトは、それぞれ別のアプローチで、人間の心(意識や記憶)と体(脳)との関係性を詳細に検討した。それらの研究アプローチは、自然科学が採用する方法とは異なり、人

間の常識や経験に基づいたものである。そのうち、ベルクソンの著作でいうと、「物質と記憶」および「精神のエネルギー」を小林秀雄が紹介している。特に後者はベルクソンの講演を中心にまとめられているので、比較的読みやすい。中でも、人間の心と体(脳)に1:1対応(平行関係)がないという指摘を、記憶と脳組織との関係性で述べている。失語症の研究から、大脳皮質の特定の言語領域は、様々な病気により色々な方向で脳組織が侵されていくにも関わらず、人間の言葉の忘却は、固有名詞、普通名詞、形容(動)詞、動詞の順で生じると述べ、人間の脳組織は、精神現象の一部を確かに反映してはいるが、同等現象を心と体(脳)がそれぞれ別に保持しているのではないと結論している。

生物學的アプローチに慣れた人は、物質基盤の上に精神世界が構築されていると疑いもなく考えるものであるが、人間の脳組織が物質的に完全に解明されても、人間の精神の扉は十分に開かれないようである。「最新の画像診断で、脳のさまざまな病態が解明されているではないか」と考えるであろうが、例えば、夫婦間の相手に対する微妙な感情の起伏が、脳組織の物質的变化に1:1翻訳されているかと問われれば、心の状態を脳の状態で100%予測することは難しいのではないかと想像される。自然科学の前提が物質基盤であることを勘案すると、もはや、それ以上の議論は難しいのかもしれない。

私が学生の頃、精神科の講師が統合失調症の病因を病理(形態・機能)学的に明らかにしたいと言っていたが、いかに自然科学が発達し、脳組織の理解が進んでも、核心に迫ることは難しいのではないかと感じている。フロイトの無意識心理学は、「夢判断」を繰り返し読むことで合点できるというような単純なものではないが、医学研究を進めるにあたり、今から100年前に、大脳の分子運動と心(意識)との間に対応関係がみられないという研究成果を踏まえ、自然科学が発達し、脳の様々な形態と機能が判明した現在でも、心(意識)を脳の状態のみから予測しようとすることは難しいのではないかと考える次第である。

文 献

1. ベルクソン全集5:精神のエネルギー. 渡辺 秀訳:1973;白水社.
2. 新訳ベルクソン全集2:物質と記憶(身体と精神の関係についての試論). 竹内信夫訳:2011;白水社.
3. 新訳ベルクソン全集5:精神のエネルギー. 竹内信夫訳:2014;白水社.

(受付:2016年1月29日)

(受理:2016年3月14日)